

2

こんな学生いませんか？

こんな感じの学生を学校で見かけませんか？

①過度な集中が見られる



1つのことに集中すると声掛けに気づかない等がよく見られる

②空気が読めない



言葉遣いや行動に違和感を感じる。関わりの中で、「なぜ？」と思うことが多い。

③指示がなかなか入らない



掲示物などを注意してみるという意識が薄い。指示に対してきちんとしようという意識が乏しい。

④冗談が通じない



字義通りに取ってしまうために、比喩や意図の読み取りが苦手である。そのためにトラブルや誤解が多い。

⑤興味や関心により、取り組み方が極端に違う



好きなことは積極的だが、それ以外には全く関心を示さず、反応が悪いかすぐ断る。

⑥提出物の期限が守れない



急かされると非常に慌てて準備をすることが多いですが、1度提出に失敗すると続く傾向があります。

⑦会話が続かない



話をしているも、突然話題が飛びやすい、何を聞いても「はい」としか言わないなど、やり取りが続かない。

⑧休み時間や空き時間に一人であることが多い



時間を持って余している感じで、さみしそうに一人で過ごすことが多いです。

⑨計画性がなく、段取りが悪い



やるべきことが多いと優先順位が分からなかったり、急かされると余計にできなくなります。

⑩自発性に乏しい



相手の気持ちや立場を考えることに困難さがあり、状況に応じた適切な社会的行動は苦手です。

⑪確認行為がとても多い



しつこいと感じるほど、同じような事柄に対しての質問や確認をします。

⑫叱責に対して極度に弱い



厳しくすると「ふさぎ込んで動かなくなる」、あるいは「ふてくされる」などしてやる気をなくしやすいです。

⑬授業に出てこなくなる



出たり出なかつたりするというよりは、続けて出てこなくなることが問題です。一度でないとう席しにくくなりやすいです。

⑭生活リズムが整わない

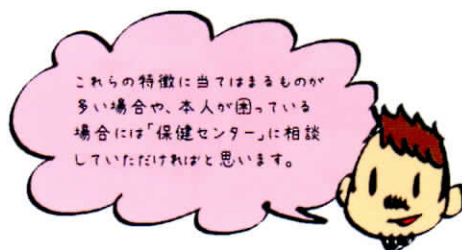


朝はボーっとしているなど、疲れているような印象を受けます。やる気がない感じや疲れている感じが顕著に見られます。

⑮洗髪や服装を整えるなど日常生活動作が未確立



いつも同じ服装だったり、周囲を気に掛ける感じがあまりありません。



このような特徴がある学生は、もしかしたら「発達障害」の特性を持っている可能性もあると思います。適応できていれば特に問題はないですが、「個性の強さ」ゆえに不適応になりやすく、関わり方や指導にコツが必要です。発達障害に対する対応というのは、基本的には「丁寧な関わり」になりますので、発達障害を持っていない学生への指導にも有効だと思います。まずは、発達障害の特性を簡単に説明して、日々の関わりのコツ等をお伝えしていければと思います。